

## 2023年曳山祭順路図

4日  
午後6:00～午後10:00まで  
善徳寺前交差点から城端庁舎前交差点が  
**通行止**

5日は右図の通り  
午前8:30～6日午前0:00まで  
**通行止**

- ← 午前
- ← 午後
- ← 提灯山
- ← 帰り山
- ← 終日車両通行止
- ★ 駐車場
- ★ からくり披露
- ← 車両の進行方向
- ! 見どころポイント

## ●曳山祭見どきガイド

**4日(木)**  
(宵祭)

6ヶ町の各山宿での飾り山は必見です。  
PM 6:00～ 御旅所(じょうはな座)にて獅子舞、お着儀、浦安の舞、城端賛歌、庵唄が奉納披露されます。  
PM 6:30～ 曳山会館にて、獅子舞・城端賛歌・庵唄合同披露等が催されます。(雨天中止)

**5日(金)**

AM 8:30～ 御旅所から神輿・傘鉾行列が出発し、氏子町内を巡行、4時ごろには神明宮へ還御されます。  
AM 9:30～ 善徳寺前交差点に6台の曳山が集合し、野下→今町→東上→西下→東下→西上へと所望宿で庵唄を唄い巡行します。  
AM 12:00 神輿、傘鉾、劔鉾、曳山が一同に並びます。  
PM 1:00～ 5:00 東上(宗林寺町)→大工町→西上→西下→出丸町 出丸町でのUターンが見もの。  
PM 7:00 提灯山となり広小路を出発。東下→東上→大工町→新町  
PM 2:00頃とPM 8:30頃 曳山会館にて各町の庵屋台・曳山紹介と庵唄が披露されます。(特設会場にて)  
PM 9:30～10:00頃 城端市民センター前での提灯山行列の引き返しは圧巻です。

## 飾り山宿

- ① 東下町 東下町内会(東町庵)
- ② 出丸町 光主幸朗(出丸町公民館)
- ③ 西下町 米原史朗(西下町公民館)
- ④ 東上町 東上町内会(長田光宅)
- ⑤ 大工町 大工町町内会(畑時夫宅)
- ⑥ 西上町 西上町内会(恵美須会館)

城端  
じょうはな

曳山祭

二〇二三年  
五月五日  
(宵祭四日)

ユネスコ無形文化遺産  
国重要無形民俗文化財

画 小原好博



お問い合わせ

一般社団法人 南砺市観光協会  
富山県南砺市是安206-22(JR城端駅内) TEL 0763-62-1201

城端曳山会館  
富山県南砺市城端579-3 TEL 0763-62-2165



優雅な庵屋台と華麗な曳山行列、桐の花咲く坂の町に紫の香りが流れる。

「曳山」

一番山  
東下町  
とう とう やま  
東 耀 山  
享保年間の作を改修・増補  
(1716～1736年) 輻車  
前後唐破風の屋根、格天井



大黒天

《安永3年(1774年)、荒木和助の作》



二番山  
出丸町  
から こ やま  
唐 子 山  
享保年間の作を改修・増補  
(1716～1736年) 板車  
前後唐破風の屋根、平天井



布袋

《宝暦12年(1762年)、荒木和助の作》  
《弘化3年(1846年)、小原治五右衛門改作》



三番山  
西下町  
かん こ やま  
諫 鼓 山  
享保年間の作を改修・増補  
(1716～1736年) 板車  
三方唐破風の屋根、平天井



堯王

《享保元年(1716年)、木屋仙人の作》



四番山  
東上町  
つる まい やま  
鶴 舞 山  
安永年間、小原治五右衛門の作  
(1772～1781年) 輻車  
千鳥・唐破風二重屋根、平天井



寿老

《安永2年(1773年)、荒木和助の作》



五番山  
大工町  
せん まい ぶん どう やま  
千枚分銅山  
明治31年の大火で類焼、同39年  
浅野喜平・辰次郎の作。 輻車  
四方唐破風の屋根、平天井



関羽・周倉

《寛政8年(1796年)、荒木和助の作》



六番山  
西上町  
たけ だ やま  
竹 田 山  
安永年間、小原治五右衛門の作  
(1772～1781年) 板車  
四方一文字の屋根、平天井



恵比須

《寛政7年(1795年)、荒木和助の作》



「御神像」



「庵屋台」

「庵 唄」 解説：「唄唄の流れる里 桂書房引用

夏は雲

宝樹会

夏は雲の ともしびに 短かき 夜半を くよくよと  
泣きあかしたる ほととぎす あおげば 顔にばらばらと  
アレ 村雨が 袖うら ぬれて よいよい よいよい よいよや  
解 説 上方端唄系 文久二年(一八六二)の『粋の懐(初編)』に掲出  
されているが、その後江戸端唄としては使用されなくなったところが  
城端庵唄として大正十四年に布袋同志会で初めて演奏されてより、  
現在に至るまで各町内で使用され、多数の持唄も出来た。  
歌意は恋に泣き明かした女心を、雲やほととぎすに託して述べて  
いるが、やや常套手段の詞章である。しかし飾付け庵唄用として適合  
しているゆえに流行している。

重ね扇

布袋同志会

重ね扇は よい辻占よ  
二人しつぱり 抱き抱 菊の花なら 何時迄も  
添けて 眺めている心 色も香もある 梅の花  
解 説 (江戸端唄系)文化十四年(一八一七)江戸中村座で上演  
した「追善累磨子」に三代目尾上菊五郎が七役を演じ好評を受けた  
時に出来た小唄である。元唄は「重ね扇はよい辻占よ、二人しつぱり抱き  
抱、こちや命でも何のぞ」であり、重ね扇、抱き抱は尾上家の紋を意味  
している。  
現行の曲は明治中期に水井素岳が改調して作ったもので、「活け眺め  
て」梅の花の一節は、五代目菊五郎の愛人辻井梅の名を隠している。

海晏寺

諫鼓共和会

あれ見やしゃんせ 海晏寺  
ままよ 竜田の高雄でも  
およびないぞえ 紅葉狩り  
解 説 (江戸端唄系)安政年間「歌沢節笛直伝本」にはあれ見や  
しゃんせの曲名で掲出されている。海晏寺とは江戸品川に在った曹  
洞宗の禅寺のことで、古くから紅葉の名所と記され、庶民が杖をひき  
賑わった。  
歌意は下総の真間、大和の立田、山城の高雄と共に比較して、一番  
すばらしいところと賞めている。

書き送る

松声会

書き送る 文もしどなき 仮名書きの  
抱いて寝よとの 沖越えて 岩にせかれて 散る波の  
雪かみぞれか みぞれが雪か とけて浪路のふたつ文字  
夫を恋しと 慕うてくらすえ  
解 説 (江戸端唄系)幕末以前に出来たもので、「歌沢節笛直伝  
本」に既に掲出されている。たどたどしい筆跡で女が夫へ手紙を書  
いている情景で、なんとも物悲しい。直伝本には文もしどなき神  
奈川であるが、現在横浜市内神奈川(五十三次の宿場)を示し、昔は  
この辺を神奈川台と称していた。従って次の「抱いて」はこの意味が  
隠されている。「岩にせかれて」は一中節の手を使って工夫してある。  
庵唄では「妻を恋し」と記しているが「夫を恋し」が正しい。

槍さび

冠友会

槍さびても その名は錆びぬ 昔忘れぬ 落とし差し  
エサアサヨイ ー ー ー エヨイヤサ  
鷹さびても その名は錆びぬ 昔忘れぬ 錆持ら  
エサアサヨイ ー ー ー エヨイヤサ  
解 説 (江戸端唄系)元来は大阪で出来たものらしく、大阪屋吉兵  
衛の店で売り出した「大雪山」という銘茶の宣伝に使った曲とも思え  
るが、詳細は不明である。嘉永前後には江戸端唄となって流行した  
が、上方系のおっとりした味は失っている。  
古来、茶といえは宇治、宇治といえは茶の代名詞となっている。も  
ともと薬用に使われたのが、次第に一般化され民間でも喫するよう  
になったのである。

宇治茶

恵友会

宇治は茶どころ さまざまに 中に嚙め 大雪山と  
人の氣に合う 水に合う 色も香もある 濡れた同志  
粋な浮世に やばらしい こらゃこらゃこらゃ  
濃茶の 仲間じゃもの  
解 説 (上方端唄系)元来は大阪で出来たものらしく、大阪屋吉兵  
衛の店で売り出した「大雪山」という銘茶の宣伝に使った曲とも思え  
るが、詳細は不明である。嘉永前後には江戸端唄となって流行した  
が、上方系のおっとりした味は失っている。  
古来、茶といえは宇治、宇治といえは茶の代名詞となっている。も  
ともと薬用に使われたのが、次第に一般化され民間でも喫するよう  
になったのである。